

経済評論家
山崎元



北海道出身。1981年、東京大学経済学部卒業。三菱商事に入社し、その後、野村投信、住友信託銀行、メリルリンチ証券、UFJ総合研究所など12回の転職を経て、現在は、楽天証券経済研究所客員研究員、国家公務員共済組合連合会資産運用委員会委員、株式会社ベンチマーク代表を務める。『超簡単 お金の運用術』（朝日新聞出版）、『難しいことはわかりませんが、お金の増やし方を教えてください!』（共著、文響社）など著書多数。

特別対談



金融広報中央委員会委員
日本銀行副総裁
若田部昌澄

神奈川県出身。1990年、早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了。1994年、トロント大学経済学大学院研究科修士課程修了。1998年、早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。2000年、早稲田大学政治経済学部助教授、2005年、早稲田大学政治経済学術院教授に就任。2017年、コロンビア大学経営大学院日本経済経営研究所客員研究員に就任。2018年より、日本銀行副総裁、金融広報中央委員会委員。

MASAZUMI WAKATABE

本対談は、距離の確保やマスク着用等の新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで実施しました。

- 02 特別対談 金融広報中央委員会委員
経済評論家 日本銀行副総裁
山崎元 × 若田部昌澄
- 06 教えて! 知るぽると
公的医療保険の
「高額療養費制度」って何?
- 11 マンガ「わたしはダマサレナイ!!」
新たな手口でさらに広がる!
宅配業者を装った不在通知の
SMS被害
- 14 連載・エッセイ⑧
野菜と暮らす春夏秋冬—春野菜
榊原道子
野菜料理家・フードコーディネーター
- 17 そこが知りたいくらしの金融知識
人生100年時代
今からできるシンプル投資
- 21 知るぽるとNEWS
中学生・高校生を対象とする
作文・小論文コンクール
入賞作品のご紹介
- 22 特別レポート
第17回 金融教育に関する
小論文・実践報告コンクール表彰式
- 26 誌上セミナー
新型コロナによる
お金の新しい生活様式
家計管理のポイントを学ぶ
- 29 まなびや訪問
岡山県立西大寺高等学校
- 30 おたよりコーナー
漢字矢印パズル
- 31 都道府県金融広報委員会一覧
編集後記

人生100年時代を豊かにする キャリアプランニングと金融リテラシー

人生100年時代といわれる今、長い人生をより豊かに過ごすために、お金の知識を学び、自分に必要な資産を形成する重要性が高まっています。数々の企業での経験を踏まえ、個人の資産形成に必要な知識を伝える経済評論家の山崎元氏をお迎えし、若田部昌澄金融広報中央委員会委員（日本銀行副総裁）が対談を行いました。不確実な世の中だからこそ若い世代に学んでほしい金融リテラシーの必要性について、経済の専門家であるお2人が語り合いました。

人材価値を高める

キャリアプランニングとは

若田部 山崎さんは個人向けの資産運用について何冊も本をお書きになり、金融リテラシーの教育や啓蒙にも熱心に取り組まれています。そういった活動を始められた経緯を教えてくださいますか？

山崎 私は北海道の札幌で育ちましたが、どうしても東京に出たいと思っていました（笑）。一方、一番やりたい仕事のイメージは精神科医でした。

若田部 何かきっかけはあったのですか？

山崎 小・中学校のころからジークムント・フロイトの本を読むなど、人間の気持ちに興味がありました。今もそ

の興味は行動ファイナンスへの関心に生かされていると思います。でも、現

役で東大理Ⅲは難しいと思います。経済学部をめざしました。卒業後は早く実際の

の経済に触れたくて、大手商社で為替のデイリーリング業務に就きました。その後は、転職を繰り返しながら、20代と30代は主にファンドマネージャーとして職業人生を歩んでいました。

若田部 その後、個人の資産運用に関心を持たれたのですか？

山崎 2000年ごろからです。それまで行ってきた年金運用などの機関投資の運用理論を、個人の資産運用に当てはめたら役に立つのではないかと考えました。

若田部 そうした活動をされてきた山崎さんと、人生100年時代をより豊

かに生き抜くために必要なキャリアプランニングや金融リテラシーについてお話ししていきたいと思っています。まずは、自分の人材価値を高めるといいますが、いかがでしょうか。

山崎 人材価値は「能力＋実績」×「働ける時間」という関係でおおむね評価できます。能力も実績も得るには時間がかかり、だからこそ計画的に取り組むキャリアプランニングが意味を持ちます。

若田部 働ける時間を長く持つ若い世代には、ぜひ知っておきたいポイントになると思います。具体的にはどのようなことが必要でしょうか？

山崎 自分の「時間」と「努力」を有効に「投資」することです。投資の対象は、勉強や人間関係などさまざまです。自分がどのような分野で働いていくかを絞り込みながら、人材価値を高くしていくとよい。

若田部 年齢的な目安はありますか？

山崎 年齢のめどを言いますと、28歳までに自分が働いていく分野を決め、35歳までにおおよその人材価値を完成

させる。そして45歳からは、60歳を過ぎた自分は何をして、いくら稼いで、そこから何年働くのかというセカンドキャリアについて考え始めるとよい。

若田部 投資のように今自分が持っている時間やできる努力をなんらかの資産に変えていく。その資産はスキルであったりネットワークであったり人であったり。

山崎 その通りです。私は12回転職しながら、運用の専門家としての実績をつくりつつ自分の人材価値を完成させていきました。そして、将来も仕事を続けられるよう、42歳のときに働き方を変えることを考えました。企業に籍を置きながら並行して評論活動を行う「副業」の働き方を選択しました。この仕事は定年がないし、将来もマイルストーンで続けられます。企業から受け取る給与所得は減りますが、私は時間と発言の自由を確保できるし、企業側は、私の経験やノウハウを生かすことができます。双方にメリットがあるので、こうした働き方が交渉で合意できたのだと思います。今は働き方改革の流れの中で、企業が副業を認めるようになってきているので、会社勤めを続けながらやりたい分野を模索しやすくなりました。副業はまだ一般的ではないかもしれませんが、今後副業する人が増えて、いずれは、普通のことになるでし

よう。転職や副業の選択肢を持つておくことは、自分の可能性を広げるためにもよいことだと思います。

資産運用に必要な

二つの金融リテラシー

若田部 人生100年時代においては、自分の人材価値を高めつつ、「収入で得たお金を貯めて増やす」ことが非常に重要となりますが、その際必要となる金融リテラシーについてお話ししていきたいと思います。金融リテラシーと聞くと「難しいことをやるのでは？」と身構えてしまう人が多いように感じます。とくに若い人は。

山崎 学ぶべきことは、お金と付き合うための基本的知識や常識ですが、とてもシンプルなものですよ。収入を得て、計画的に貯蓄をし、資産を正しく運用して、リタイア後は資産を計画的に取り崩す。その際のさまざまな選択を間違わないために身に付けるべきこととして、前向きに向き合ってほしいです。

若田部 シンプルで単純なことは非常に大事なことだと思います。まずは、具体的に貯蓄についてのご意見はありますか。

山崎 老後に必要な貯蓄額について考える人がかなり増えました。しかし、世間で平均とされる数字を知っても正しい参考にはなりませんし、不安の解

消にはつながりません。平均より収入の低い人は将来平均より使わないのにこんなに必要なかと心配になるし、平均より収入の高い人は将来平均より使うためこれで足りるのかと不安になるでしょう。

若田部 自分に合わせた必要貯蓄額を知っておくことが大切です。そういうことに気づき、具体的に考えることも金融リテラシーのアップにつながると思います。

山崎 おおよその貯蓄の目安としては、給与所得者は厚生年金があるので、手取りの15%~20%、個人事業主なら25%~30%くらいの貯蓄をしておきたいですね。

若田部 そして貯めたお金を増やすために資産運用をするわけですが、iDeCoやつみたてNISAなどの税制優遇制度によって、若い世代を中心に投資行動が変わりつつあります。

山崎 新型コロナウイルス感染症の拡大によって世界的に株価が大きく下落したとき、ネット証券の新規口座開設数が月間最高件数を記録しました。とくに若年層の増加が大きく、投資への関心が高まっているのですが、だからこそ、適切な情報を伝える必要があると考えています。

若田部 ただ、投資への関心の高さと身に付けている金融リテラシーのバラ

ンスが悪いと、リスクも高くなってしまいますね。資産運用において知っておくべき金融リテラシーはいろいろありますが、とくに必要と思われることは何でしょうか？

山崎 大きくは二つあります。まずは「損得計算」です。コストや利益の損得を数字で計算して理屈で考える知識です。例えば、年率1.5%の運用管理費を払うのと0.2%で済むのとでは、20年間の運用でどれだけ違うのか。こういうことを常識として考えようと思わないと、正しく運用ができません。

若田部 金融リテラシーが十分でない「たかが1%くらい」となってしまいい、大きなコストが発生していることにも気づかないかもしれません。四則計算や複利計算、標準偏差が分かるとういのでしようが、そういった計算を諦めてしまう人も少なくないように

思います。

山崎 日本人の数学に対する苦手意識にはすごいものがありますね。

若田部 それも金融リテラシーの広がりや妨げる要因の一つになっているのかもしれないですね。

山崎 二つ目は、株式、投資信託や保険などの金融商品は金融機関のビジネスとして販売されているという「大人の経済常識」です。ふだんの買い物なら、よい商品とはどういうものか知識を持ったうえで、自分が欲しい商品をイメージしながら、購入するか否かを慎重に検討するはずですよ。しかし金融商品の場合、売り手に言われるがまま購入してしまうケースがきわめて多い。その金融商品が「本当に必要なか」、「本当に得なのか」、「コストはいくらなのか」といったことまで考えがたどり着かないと正しい意思決定には



なりません。

若田部 先ほどの「損得計算」と同様に、こういうことを常識として身に付けないと正しい運用ができないということですね。

金融リテラシー浸透の障壁 その改善策とは

若田部 山崎さんのお話はどれも「なるほど！」と思う金融リテラシーなのですが、なかなか浸透していない印象を受けます。それは「お金のことを考えることすら良くない」という感覚が日本人には根強く残っており、それが資産運用などを素直に学ぶ障壁になっているように感じます。

山崎 多分にあると思います。教育関係者にもお金の話題に抵抗感を持つ人が小さくない割合でいます。そこを解きほぐすことは非常に重要です。

若田部 教える側の課題については、いろいろと考えるべき点があります。今の大人は金融リテラシーの必要性を意識してこなかった人も多いという状況から、教員も含めた大人への金融教育は急務と感じています。

山崎 学校で金融教育を行う際には、何をどれだけ教えるかというのかという基本的なカリキュラムが必要です。学校で伝えるべき内容をできるだけ体系化し、精神論にかたよりがちなお金の

話を、小学校や中学校など、それぞれの段階で損得をきちんと理解させながら金融の社会的構造を教えることで、実践的な金融リテラシーが身に付いていくのではないのでしょうか。

若田部 学習指導要綱が改訂となり金融教育も取り入れられています。カリキュラムの充実と定型化、それに則した使いやすいテキスト、教員育成の三つの強化をできたらよいと思います。ところで、金融リテラシーを身に付ける方法として、若いときから投資を行うことはいかがですか？

山崎 少額でも実際に体験することで投資の仕組みが理解できますし、資産運用の感覚も養うことができます。投資は使える時間が長いのが大事なことで、若いときから始めるのはよいことだと思います。

若田部 日本では退職金を手にして初めて資産運用を始める人も多いという現状があります。

山崎 それはたぶん最悪の運用デビューのパターンです。金融リテラシーが十分でないにもかかわらずまとまったお金を手にして「自分は客である」という意識が強くなり、勧められる金融商品の情報を理解しないで購入してしまう人が少なくありません。手数料が高かったり、自分の望んでいたのとは違うリスクの高い商品を選ぶケースが



少なくない。

若田部 投資を始めたような人たちが思いがちなのは、投資の神様みたいな人がいて、神様なことをやれば確実に儲かるのではないかと思うけど、それはありえないというのが第一原則ですよ。それでは最後にうかがいます。山崎さんにとってお金とは？

山崎 「自由を拡大する手段」であると思います。あくまで手段として、合理的に扱い、自分の目的に応じて使えばよい。

若田部 16〜17世紀に活躍した英国の哲学者のフランシス・ベーコンは「お金は素晴らしい召使いであるが主人としては最悪だ」と言っています。お金はあくまでも道具であり、お金そのものにとらわれてはいけないということですね。そして、お金にとらわれない生き方をするためには、お金のことを

よく知らなければならぬ。

山崎 お金があることでできることの範囲も広がるし、お金は悪いものではない。ただ、理想的にはまるで吸った息を吐くようにお金を使って、呼吸の際に空気を意識しないような感じで、お金のことを意識しない人生がよいのかもしれません。

若田部 それは最高ですね！人生は計画通りにはいかないけれど、不確実な世の中だからこそ、プランニングが重要となる。そして金融リテラシーがあれば、何が起きても冷静に対処して最善を行うことができる。楽しい人生を生きるうえでキャリアプランニングや金融リテラシーは不可欠なものです。これからも私たちが伝えていくべきことはたくさんありますね。本日はありがとうございます。